

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

安全で安心な居場所で小さな成功体験を積み重ねることで、生徒を社会参画する市民として育て、社会に送り出すセーフティーネットとしての学校をめざす。

- 1 個に応じた学習指導の工夫に努め、学力の向上を図る。
- 2 生徒の自己実現を支援する進路指導を推進する。
- 3 豊かな心や社会性を育む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

(1) 「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした、授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。

- ア 観点別学習状況評価の充実や1人1台端末の活用などに向けた組織的な取り組みを推進する。
- イ 授業アンケート等を効果的に活用し、校内研修や公開授業など、教員の授業力向上に向けた取り組みを進める。
- ウ 一人ひとりの「学習環境」を確保するため、授業規律の確立に努める。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率を令和8年度まで85%以上を維持する。(R3:95% R4:89% R5:92%)

※教員向け学校教育自己診断における「授業改善に努めている」の肯定率を令和8年度までには90%とする。(R3:95% R4:90% R5:71%)

※生徒向け学校教育自己診断「授業中は学習できる雰囲気が保たれている」の肯定率を令和8年度まで85%以上を維持する。(R3:78% R4:89% R5:93%)

2 キャリア教育及び進路指導の充実

(1) 将来の自立や社会参加、進路実現につながるキャリア教育や進路指導を推進するため、カウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組む。

- ア 一人ひとりの生活背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導を充実させる。また、そのための生徒支援体制を充実させる。
- イ 一人ひとりの勤労観を育成するため、適切な進路情報を提供し、生徒一人ひとりに将来像を確立させる。

※教員向け学校教育自己診断における「教職員のカウンセリングマインド」の肯定率を令和8年度まで90%以上を維持する。(R3:100% R4:90% R5:100%)

※生徒向け学校教育自己診断における「気軽に相談することができる先生がいる」の肯定率を令和8年度まで85%以上を維持する。(R3:86% R4:93% R5:89%)

※生徒向け学校教育自己診断における「進路の情報を知らせてくれる」の肯定率を令和8年度まで85%以上を維持する。(R3:83% R4:89% R5:92%)

3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成

(1) 特別活動や生徒会活動を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成する。

- ア 行事や生徒会活動、部活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られるよう、生徒が主体となる活動を支援する。
- イ 人間関係形成能力を育成するため、「あいさつ運動」に取り組む。

※教員向け学校教育自己診断における「学校行事や部活動の工夫・改善」の肯定率を令和8年度まで90%以上を維持する。(R3:91% R4:90% R5:100%)

※生徒向け学校教育自己診断における「あいさつができてきている」の肯定率を令和8年度までには90%とする。(R3:88% R4:90% R5:89%)

(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格を育成し、社会の一員としての自覚と責任を醸成する。

- ア 様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。
- イ 心豊かな「社会の一員」となるよう、地域等と連携しながら多様な価値観を育む教育を推進する。
- ウ 災害時等に生徒が自他の命を守ることができるよう、安全指導の充実を推進する。

※生徒向け学校教育自己診断における「人権学習の機会」の肯定率を令和8年度まで90%以上を維持する。(R3:90% R4:96% R5:95%)

4 学校運営体制の確立及び人材の育成

(1) 迅速な意思決定により、機動力のある効率的な学校運営をめざす。

- ア 「学校組織運営に関する指針」に基づき、企画会議及び運営委員会を学校運営の核として位置づけた学校運営をすすめる。
- イ 分掌や年次会、委員会等、各組織間の連携を密にし、校務の効率化を図る。
- ウ 業務改善を通して、働き方改革を進める。

※教職員向け学校教育自己診断における項目「分掌や年次の連携」の肯定率を令和8年度まで85%以上を維持する。(R3:86% R4:90% R5:100%)

※教職員向け学校教育自己診断における項目「会議の有効機能」の肯定率を令和8年度まで80%以上を維持する。(R3:71% R4:90% R5:94%)

(2) 次代を支える教員(ミドルリーダー)の育成を図る。

- ア OJTや教員の自主研修、研修報告などを通して、人材の育成を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上	<p>(1) 授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。</p> <p>ア 観点別学習状況評価の充実や1人1台端末の活用などに向けた組織的な取組みを推進する。</p> <p>イ 授業アンケート等を効果的に活用し、校内研修や公開授業など、教員の授業力向上に向けた取組みを進める。</p> <p>ウ 一人ひとりの「学習環境」を確保するため、授業規律の確立に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「授業研究チーム」を核として、観点別学習状況評価の充実や1人1台端末を活用した授業づくりに組織的に取り組む。</p> <p>イ・教員相互に授業に対する意見交換を行い、授業改善につなげるための機会を設ける。 ・教員の授業力を高めるため、観点別学習状況評価や1人1台端末の活用など、テーマを絞った授業を校内で公開する。</p> <p>ウ・「授業規律」に対する生徒の意識向上を図るため、各期初めに授業のルールやマナーについてすべての授業で周知する。 ・授業中のスマートフォンの使用や私語などに対する指導は、全教員が共通認識を持って行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・年間研修計画の策定（4月） ・生徒向け学校教育自己診断 「自分の考えをまとめ発表する」肯定率80%以上[80.0%] 「1人1台のタブレットを使って学びを進める機会がある」肯定率90%を維持[90.7%] ・教職員向け学校教育自己診断 「問題解決的な指導を行っている」肯定率90%を維持[94.1%]</p> <p>イ・教員相互の授業見学期間を年間2回以上設定する。[2回] ・授業力向上に係る研究授業・協議や教職員研修を4回以上実施する。[5回] ・教職員向け学校教育自己診断 「授業改善に努めている。」肯定率85%以上[70.6%] ・授業アンケート「生徒意識」3.5以上[3.62]</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断 「授業中は学習できる雰囲気は保たれている」肯定率85%を維持[93.2%] 「学校生活について先生の指導には納得できる」肯定率85%以上[93.2%]</p>	
2 キャリア教育及び進路指導の充実	<p>(1) キャリア教育や進路指導を推進のためのカウンセリング及びガイダンス機能の充実。</p> <p>ア 一人ひとりの生活背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導を充実させる。またそのための、生徒支援体制を充実させる。</p> <p>イ 一人ひとりの勤労観を育成するため、適切な進路情報を提供し、生徒の理解を深めさせる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒理解を深めるため、家庭、中学校や前籍校、勤務先などの訪問を行う。 ・懇談や家庭連絡等を通じて、生徒の状況を正確に把握するとともに、単位修得へと結びつくように指導を行う。 ・長期欠席等の生徒について、個々の状況の把握と生徒の学びの見通しを明確にするため、事務室と連携を取りつつ家庭連絡や家庭訪問などを行う。 ・SCやSSW、居場所事業を活用して生徒支援の充実を図る。</p> <p>イ・進路に対する意識を高めるため、キャリアパスポートを活用する。 ・教員間の勤労観職業観に関する共通理解のもと、生徒や保護者対象の進路説明会や個別指導、進路HRなどを実施する。 ・個々に応じた進路情報を適切に提供するとともに、すべての生徒や保護者に向けて進路だよりを定期的に発行する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断 「相談できる先生がいる」「落ち着ける場所がある」肯定率平均85%以上[84.7%] ・教職員向け学校教育自己診断 「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」「生徒ひとりの課題に教員が向き合っている」肯定率平均90%を維持[100%]</p> <p>イ・教職員向け学校教育自己診断 「望ましい勤労観職業観がもてるよう進路指導を行っている」肯定率85%[75.0%] ・生徒向け学校教育自己診断 「将来の進路を考える機会がある」肯定率85%を維持[90.3%] 「進路についての情報を知らせてくれる」肯定率85%を維持[88.9%]</p>	

<p>3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成</p>	<p>(1) 生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成する。</p> <p>ア 行事や生徒会活動、部活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られるよう、生徒が主体となる活動を支援する。</p> <p>イ 人間関係形成能力を育成するため、「あいさつ運動」に取り組む。</p> <p>(2) 社会の一員としての自覚と責任を醸成する。</p> <p>ア 様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。</p> <p>イ 災害時等に生徒が自他の命を守ることができるよう、安全指導の充実を推進する</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校行事については、生徒が高い満足度を得られるよう一層の充実に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間やLHRの実施内容や実施方法を、生徒の学校への帰属意識がより高まるようなものとする。 生徒会活動や部活動について、多くの生徒が主体的に参加できるよう工夫する。 <p>イ・登下校時の「あいさつ運動」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> あらゆる場面における挨拶の励行。 <p>(2)</p> <p>ア・「人権教育年間計画」に基づき、教科や特別活動など教育活動全体で人権教育を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が卒業までに多様な人権課題をバランスよく学習できるよう工夫する。 合格者説明会や受講指導等を利用し、本名指導を行う。 日本語指導が必要な生徒への指導に組織的に取り組み、卒業後の自己実現を支援する。 <p>イ・通信制との連携を含めた実践的な避難訓練を実施するとともに、訓練以外の方法での周知も行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 夜間の避難に対応できるよう、校内掲示等、安全対策を充実させる。 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断 「学校に行くのが楽しい」肯定率 80%以上を維持[82.7%] 「学校行事」肯定率 80%を維持[97.2%] 「部活動」肯定率 80%以上[78.9%]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断 「学校行事や部活の活性化」肯定率 80%以上を維持[100%]</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断 「あいさつができています」肯定率 90%を維持[89.3%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断 「人権の大切さについて学ぶ機会がある」肯定率 90%を維持[94.7%]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断 「人権問題を正しく理解し、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」肯定率 90%を維持[100%]</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断 「災害時の避難行動について具体的に知らされている」肯定率 90%を維持[94.7%]</p>	
<p>4 学校運営体制の確立及び人材の育成</p>	<p>(1) 効率的な学校運営。</p> <p>ア 分掌や年次会、委員会等、各組織間の連携を密にし、校務の効率化を図る。</p> <p>イ 業務改善を通して、働き方改革を進める。</p> <p>(2) ミドルリーダーの育成。</p> <p>ア OJTや教員の自主研修、研修報告などを通して、人材の育成を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・校務の効率化を図るため、会議間の情報共有を密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営における課題等は速やかに管理職と共有できる体制を徹底する。 すべての会議において、効率化を推進し所要時間は1時間以内とする。 <p>イ・あらゆる業務が効率的で効果的となるよう、個人へ業務量や業務上の責任の分散を図るため、校内組織や校内人事の見直しを行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・経験年数の少ない教職員を対象としたOJTや教員の自主研修を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰がどの研修等に参加しているかを周知する仕組みを構築し、校外研修等の成果を伝達する機会を設ける。 	<p>(1)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断 「各種会議の有効機能」「分掌・年次間の連携」平均肯定率 85%以上を維持[97.1%] 「学校運営に教職員の意見が反映されている」肯定率 85%以上を維持[88.2%]</p> <p>・運営委員会及び職員会議の平均会議時間は45分以内[約40分]</p> <p>イ・ストレスチェック総合健康リスク 100未満 [102]</p> <ul style="list-style-type: none"> 高ストレス判定者率 10%未満 [16%] 教職員向け学校教育自己診断 「意欲的に取り組める環境」肯定率 70%以上を維持[76.5%] <p>(2)</p> <p>・経験年数の少ない教職員を対象とした自主研修や懇話会を年3回以上実施し、肯定率を80%以上とする [5回]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「研修成果の伝達機会の設定」肯定率 80% [70.6%]</p>	